

# くまざさ

同窓会館建設の構想が打ち出され、既に八年が経過しました。最初は富士見町の現湖陵高校正門右手の道新から寄贈された所が予定地で、同窓の建築家毛綱氏の設計で、二度の練り直しのすえ「くまざさ」五号と八号に発表されたところは御存知のころと思えます。五年前には同窓会館建設実行委員会も結成され、一部の卒業期では既に募金活動も行なわれ、数百万も集めた期があると聞いております。又五年前の湖陵開校七十周年記念式典では、組村前同窓会長より、同窓会館の目録贈呈が行なわれ、学校側も同窓会側も、まさか「カラ手形」を渡されたとも渡したとも思っています。



## 同窓会館建設へ始動

昭和六十五年秋完成を目ざして

鉦路湖陵同窓会副会長

久本 甫

緑ヶ岡の大地に新校舎と並んで

四年前の五十九年六月、湖陵の移転用地が、緑ヶ岡のゴルフ場に決まった事が発表され、それまで進められて来た計画は、白紙に戻った状態となりました。そしてこの五月、湖陵の新校舎の外観・内容等が関係者より発表され、我が同窓会館用地も、同じ緑ヶ岡三丁目の東南の角地を手に入れられる事が、ほぼ決定的となりました。

此の三ヶ月毛綱氏は、初期の基本設計をくずす事なく、又学校側の希望をも加味し、「緑ヶ岡の大地と、新校舎の外観とに調和した体裁を具備した記念碑的建物」と云う事を条件に、目下設計を進めております。本年度の総会当日会場で同窓会館の模型を御覧いただける手筈になっております。

同窓毛綱氏心血をそいで

毛綱氏の設計による建物は、今や鉦路地方では数多くみられますが、そもそも、我が同窓会が最もはじめに、氏に白羽の失を立て発

注する筈のものでしたが、母校の移転問題で今までのびたものであります。今後は六十五年の湖陵新校舎の完成に合わせて、会館建設実行委員会の再編制、募金活動等残された問題は数々あります。

建設費の予算 二億円

当初一億八千万円で設計を進めておりましたが、既に八年を経過し、ここ一、二年の建築費の高騰により、同じ規模、同じ内容の物は二億数千万程かかるとみられます。そこで毛綱氏の意見をとりますと、一部を鉄骨・木造にする事により、二億程度に縮小出来る事であり、建物の一部が木造であることには、懸念されるむきもあるかも知れませんが、建設小委員会としては、実現出来る原案と考えております。いずれにしても、悲願とも思える同窓会館建設を、夢でなく実現に向けて後輩同窓生として後世に誇れる立派な会館を残す心算で、皆様一人一人、卒業生一人一人の絶大な御協力をお願いする次第であります。

設計者の横顔

私たちの手で建設しようとしている同窓会館の設計は、三十四年度卒業の毛綱氏によるものである。毛綱氏は昭和十六年十一月に鉦路市に生まれ、日進小、東中、湖陵高校を経て、四十年に神戸大学工学部建築学科を卒業。

一級建築士として国内はもとより、国際的に高く評価され、鉦路市立博物館、鉦路市湿原展望台、鉦路市立東中学校と身近にその作品が見られます。

一級建築士として国内はもとより、国際的に高く評価され、鉦路市立博物館、鉦路市湿原展望台、鉦路市立東中学校と身近にその作品が見られます。

# 青春と友情の再確認

湖陵二七会東京支部会長

岩崎 隆

昭和六十二年十月二十四日は、私にとっては五十有余年の人生の中でも、終生忘れ得ぬ思い出に残る一日でありました。

「青春と友情の再確認」と銘打つね開催されました。「釧路湖陵二七会三十五周年記念東京大会」が、百数十名の同期生と、多くの恩師の御出席を頂き、東京新宿のワシントンホテルに於て盛大に開催され、大成功の内に、次回の再会を約し無事終了致しました事は同会世話人の一人としてのみならず、湖陵二七会同期生として、心から誇りに思うものであります。遙に霊峰阿寒を望み、右手に怒涛逆巻く太平洋を眺むる北の都釧路市。

想い起してみますと、多くの同期生は未だ喉に焼きついて居るであります。終戦の傷跡の深い焼土の街に、昭和二十一年四月、当時エリートと云われていた二本の白線に六葉の熊笹の校章、私達の憧れの的でありました(旧制)

北海道庁立釧路中学校の校門をくぐったその日の出来事を……。当時入学をした二百五十名の中の一入として、私も大いに胸を張ったものでした。そして雨の日も、雪の日も、風の日も、いつも変らぬ黒い重いマントを着用しての登下校の六年間。e t c : : : c t e : : e t c .

はるかに走馬燈の如く浮かんで消え去って行く思い出ではありませんが、まさに私にとっては、掛け替えのない青春そのものであり釧中・釧高・湖陵高を通じての、なつかしき六年間でありました。昭和二十七年三月、愛する湖陵ヶ丘の学舎を出でしより三十五年。月日の経過は矢の如く、男子の多くは良き父であり、女子の多くは良き母となり、夫々社会の重鎮として、そして一家の柱として、なくてはならぬ存在であります。その級友の多くが、遠くは北海道釧路市はもとより、札幌、北見、帯広等々、又本州は東北、関西の各

地より馳せ参じて下さいまして、その数は百数十名を数えました。大会当日は、湖陵二七会東京支部会員の諸兄姉に依る気くばりと心暖まる歓迎に始まり、入学以来の恩師でありました男沢哲男先生始め、多くの恩師の方々の御出席を仰ぎ、現職の町田校長先生をゲストとしてお迎えしての盛大なパーティーを、心ゆくまで楽しみました。応援歌あり、壮行歌が歌われました。そして校歌が歌われま

しました。出席していただいた同期の大多数の朋友は、皆、目に涙しての熱唱でした。まさに、吾が青春に悔いなし、そのものでありました。ある朋友とは湖陵高校卒業以来三十五年目にして始めて顔を合せ、ある朋友とは当時のクラブ活動に花を咲かせ、又ある朋友とは今は亡き朋友との思い出に涙して、時刻のたつとも忘れる思い出の一夜でありました。「温故知新」(古きを訪ね新しきを知る)まさにこの言葉の如く三十五年前にタイムスリップをした、青春の一ページでありました。

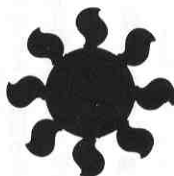
そして翌日は有志による伊豆温泉旅行、故郷の、そしてなつかしい思い出を乗せた楽しいバス旅行を楽しんでもら

いました。そして、数々の思い出を残して、別れて行きました。「湖陵二七会三十五周年記念東京大会」の企画に参画し、実行委員の一人として、同期のクラスメートの思い出に、お手伝い出来た事を心から感謝申し作げると共に、釧中、釧高、湖陵高六年間を通して学業に精励したとは決して言えない私ではありますが、同期の級友とのこの「青春と友情の再確認」を、いつまでも忘れず、朋友の倅を心より念じつつ、今後の人生を送って行きたい。

三十五周年記念東京大会



太陽のように明るく暖かい  
真心で良い品をより安く  
ご奉仕するセオチェーン



営業品目

●食料品●日用品●衣料品●軽食堂

セオ

妹尾商店

釧路市新橋大通1丁目  
☎25-5345

新富士ストア

釧路市新富士駅前  
☎51-3467

愛国ストア

釧路市愛国37番地  
☎36-4295

白樺ストア

釧路市白樺台1丁目  
☎91-5423

昭園ストア

釧路市昭和190番地  
☎51-8853

妹尾 継 男(湖陵4期)



釧中32期 奥田達也

戦後の戦

昭和六年の満州事変から始まった長い第二次世界大戦が日本の無条件降伏で終わった。

物心ついて以来、軍国少年として教育され、正義の戦と信じ、勝利を疑わなかった釧中生は茫然自失、勤労作業場から教師にいわれるまま帰郷した。だが市内での奉仕作業はつづく。

予科練へ入隊した連中は在学生以上に情熱的な軍国少年だ。出陣もできずタコ壺掘りにかり出され殴られ、放して帰郷した。

いずれも敗戦の屈辱を弱い者同志でぶつけあう。予科練帰りはノンポリと思える彼らに腹をたてている。下級生いじめは昔からあった。挨拶が悪いといつては殴る。それだけですまなくなり、同級生の軟派な者へも憤りが向けられた。口だけ達者な理屈屋が鼻もちならない。中学時代は体力が優先する。大義名分は、生意気な奴

だけで結構。日本の再建を乱す者でも良い。

おしゃべりな頭が良い体力の無い某が檜玉にあげられた。

その噂が某の耳に入った時、彼なりに予科練帰りの暴力へ正義の



立腹を感じていた。受けて立つには体力もなく味方もいない。

彼は自分の得意な文章力だけで闘おうと決心する。それ以外に方法は無い。檄文を書いた。

利かん気な親友の高橋俊哉が張り出せ、という。日曜日に登校し巻紙一杯に書きあげ、黒板の上へそれを掲示した。非力の佐藤伸一も、

「仲間に入れてくれ」という。弱者同志の友情が生まれる。協力して闘おうと誓い合う。

翌朝、登校したクラスメートは膨大な檄文に驚く。読んでもわからないが、何か大変な改革が起き始めた感じを覚えて興奮する。

敗戦で学業再開となり、多数の先輩者が入学してきた。その推戴による級長稲葉善一が代表する。

「さっぱり私にわからないから説明してや」

ここぞと某は教壇へあがり、フアイト十分、読みあげた。

彼の愛読した徳富健次郎「思い出の記」にある檄文そっくりな弾劾文だ。リズムカルな迫力万点の

文語調である。熱血に燃え熱情の逆る熱弁をふるった。

幼稚ながら、攻撃の迫力が年輩者、予科練帰りを圧した。

日頃いじめられてばかりいた生徒が同調し、非難のまなざしを暴力者へ向ける。数からいえば矢張り弱者が、被害者側が多い。

暴力者らは孤立した。なにしろ朝の教室。まだ理性がまさっている霧閉気のなかだ。そこへ教師が入ってきた。教員不足から騒出された若い先輩教師の村尾尚彦は一

べつしてその空気を察知した。「なかなか良らしい」の一言。それで形勢は一決した。暴力は破れ、言論が勝ったのである。

その夜、某への呼び出しはなく同級制裁は沙汰済みとなった。

世の流れも校内の流れも、暴力から言論へと移っていった。口の達者なものがクラスを、校内をリードして行く。人前で溜溜としゃべれる者の天下になる。

弁論大会は校内、学校対抗と催され、雄弁家は英雄となる。体力や学力よりも雄弁が優先した。

自由や民主化の波に級長も生徒の選挙による。雄弁家や世話好きな者が選ばれるようになった。任命制のなごりはまだあり、それに時代の好みが増味された、というべきか。学校当局は当選即任命ではない、としながらも当選者が級長となっていた。某が級長になったのは無論のことである。

上級生が依然、下級生をリードしていたけれど、直ぐ下の年令差のない生徒は上に反撥し、反抗し始めたのが敗戦後の現象といえるかもしれない。

最上級の五年生がリードして始まる戦後初の釧中ストライキはかくして起きるのであった。

真心伝えたい…御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

釧路シーサイドホテル

黒滝恵 (湖陵14期)

〒085 釧路市南大通り5丁目1-1  
ご予約・お問い合わせは (0154) 41-1717



### 我が青春は勤労作業

鋼中三十二期 松本 文雄

昭和十八年入学、二十三年卒業といえ、まさに戦中・戦後がわが鋼中時代である。

今強く脳裏に残るのは、満員のため窓から出入りしたり、貨車に乗せられた汽車通学、ゲートル検査にビクビクしたことよりも、勤

労作業での一こま一こまである。昭和二十四年四月、入学式直後

三年生になった私達は、クラスをいくつかの班にわけ、上札鶴(今の緑)に造材作業に行き、約五ヶ月をそこですごした。

一日の作業が終ると、ランプの灯の下で全員が一定の時間勉強したり、K君・T君から文学論や小説のストーリーを聞いたり、時には歌を唱ったりで、先生はいなくても充実した毎日であった。

ある日、雪の中から木材を掘り出す作業を終え、宿舎にもどる途中、最後尾を歩いていたら私は、道路が陥没したように、雪の穴に落ちてしまった。持っていたスコップを頭上にかかげても届かない深さである。叫んでも聞こえず、這い上るすべもなく、心細かった。

とを覚えている。私が居ないことに気づいた級友が引き返してきてことなきを得たが、まさに神隠しにあったようなものである。

この話は、勤労動員中うるしにかぶれ、川湯温泉に湯治に行き、皆の羨望的になったこと、甘味に飢えているとき送られてきた糖密にからめた大豆のおいしかったことなどとともに、上京すると泊まる横浜在住のN君・T君との恒例の話題であり、そばで毎度聞かされる両君の奥さんはいささか食傷気味のようにである。

今の時代には味わえぬ経験を私達は、別の意味でよき青春を送ったのかも知れない。

今、時代には味わえぬ経験を私達は、別の意味でよき青春を送ったのかも知れない。



## わが青春は……



### “声優”を夢みていた私

湖陵十三期 古川 和栄

四月、職場に新入社員が胸ふくらませ出勤して来た。私の担当係にも、女子一人が配属された。湖陵高校出身。何と、放送部“VOK”にいたと言う。

なつかしい響き“VOK”そう、もう三十年も昔の事だ

忘れかけていた記憶が、まるで朝もやの中から顔を出すように、うっすらと浮んで来た

いつの頃からか、声優に憧れていた私が、胸ときめかし湖陵へ入学して驚いた。教室の片隅に取り付けられたスピーカーから美しい音楽と共に男女二人が演ずる青春ドラマが、堂々と流れているではないか。

櫻村春子のファンで、高校を卒業したら弟子入りして、必ず声優になろうと真面目に考えていた私は、迷わず放送部へ入部した。

放送の企画はもちろん、放送の台本の製作、音楽の選曲各教室のスピーカーの点検、

放送の企画はもちろん、放送の台本の製作、音楽の選曲各教室のスピーカーの点検、

全て放送部員の仕事である。放送部に限らず、どのクラブを見ても先輩達が伸び伸びと自由に、青春を力一杯歩いている。

夢を捨て切れずにいた私は、三年になった時、NHK放送劇団へ入団した。当時ラジオドラマが盛んで、語り手、娘、妻、母、教師妖精と、多種多様の役を演ずる事が出来た。

そして忘れる事が出来ないもう一つの思い出。最初で最後の舞台であった高校演劇“予告された心中”の出演。惜しくも根室高校に地区代表を奪われたが、一つの目的に向って、皆んなが一つになり

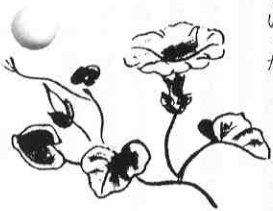
情熱を燃やす事が、どんなに素晴らしい事か。あの時の、皆んなの鮮やかに甦えり、再び朝もやの中へ消えていった。

情熱を燃やす事が、どんなに素晴らしい事か。あの時の、皆んなの鮮やかに甦えり、再び朝もやの中へ消えていった。

情熱を燃やす事が、どんなに素晴らしい事か。あの時の、皆んなの鮮やかに甦えり、再び朝もやの中へ消えていった。

情熱を燃やす事が、どんなに素晴らしい事か。あの時の、皆んなの鮮やかに甦えり、再び朝もやの中へ消えていった。

情熱を燃やす事が、どんなに素晴らしい事か。あの時の、皆んなの鮮やかに甦えり、再び朝もやの中へ消えていった。



御卒業・御入学の喜びを1枚の写真に……

湖陵・江南・北陽・星園・短大高校他  
市内小中学校卒業アルバム専属作成

株式会社 工藤写真館

工藤寿男(鋼中26期)

釧路市南大通5-3-7 TEL 41-5751

駐車場(20台収容)完備



# 当番期紹介

## 逆境をのり越えて

湖陵第六期

### 前野賢治

小学四年に終戦、そしてその後の混乱と貧苦、そうした中にあるも、あの「りんごの歌」を聴きながら、ひとすじの希望の光を求め、中学を終え、ようやく昭和二十六年春湖陵の門をくぐった。

しかし、軍服のままで教壇に立つ先生、又、応援歌の練習では剣中の伝統をまだ引継いでいた先輩の厳しいしごきなど、驚くことばかりであった。

翌二十七年三月には例の十勝沖大地震、校舎二階で授業中、突然襲ってきた大揺れに、何んと、一番先に逃げたのは先生であった。(今だから書ける)我々もそのあとについてようやく中庭にたどりついた。しかしあの恐怖の中、石炭ストーブを守っていたのは数人の同僚であった。

そして二十八年には校舎火災、厳冬の中、教室を失った我々は、江南高校、学芸大学(現創教大)と転々と間借授業、ようやくできた仮教室はベニヤ囲いであった。

しかし、このような逆境にもめげず、我々六期は連帯の和を重んじ、明るく勉学に、そしてスポーツに励んだものであった。

卒業後、今迄の永い人生の中であの学生時代の多くの苦境がいくらか人間形成の源になっているのではなからうか。

いずれにしても、最後の当番幹事期として、改めて連携を深めていきたい。

## 我ら無試験会

湖陵第十六期

### 鈴木豊治

創中、湖陵の歴史の中で、ただ一度無試験で入学した者達がいる。それが我々湖陵十六期生である。

昭和三十六年二月末の寒い日の午後、湖陵高校だけが無試験となることを知らされた。

名門湖陵の合格を目ざし、日夜勉強に励んだ結果が無試験となりくやしさと安心感が入り混じった複雑な思いと、他の高校を受験する仲間の羨望の眼に肩身を狭くしながらも約一ヶ月の後、輝かしき未来と素晴らしい高校生活への熱い期待を胸に入学式を迎えたので

あります。そして、それが生涯の友となるべき素晴らしい仲間との出会いでありました。

我々は、湖陵最後のパンカラであったと思っております。

夏は下駄ばき、冬は黒いゴム長靴で登校し、時にはクラス全員で授業をサボって春探湖でボート漕ぎ、水泳をしたこともありました。もちろん、先生方は職員玄関の前にはずらりと並んで我々が帰ってくるのを待っており、やさしく「？」叱って下さいました。

うさぎ狩りや修学旅行、学校祭やスポーツ大会、そして創立五十年記念式典などの素晴らしい思い出を胸に、昭和三十三年の春、或る者は初めての受験に合格し大学へ、或る者は就職して社会へと、我ら無試験会の仲間達はそれぞれの世界へ旅立ちました。

そして今でもあの「幻の入学試験」を受けて湖陵高校の門をくぐりたかったと、心ひそかにチョツピリ胸が疼くのである。

## いよいよ登場「花の26期」

湖陵第二十六期

### 清水彰人

卒業以来14年。今年の湖陵同窓会当番幹事を仰せつかった我々「花の26期」も年令も30を優に越え

職場では中堅、家庭にあっては夫父として好むと好まざるとにかかわらずそれなりに頼られる年代となりました。

我々が生れた昭和30年前後は、「もはや戦後ではない」と言われ高度経済成長時代の幕明の時期でした。そして、まさに「高度成長の申し子」とも言うべき少年時代を過ぎた我々が、次代の担い手たらんと希望を胸に湖陵の学舎にかよった頃は、さすがの高度経済成長にも翳りが見え始め、オイルショック、浅間山荘事件といった象徴的な出来事が起り、時代の大きなうねりを感じざるを得ない時期でした。

こんな時代を過ぎて我々は、学生運動にも乗り遅れ、熱中することを忘れた、ともすれば言わゆる「三無主義」ばかりが強調される世代でもありました。

先輩方から見れば「まだまだ青二才」、後輩諸君から見れば「何となく頼りない」。そんな存在かもしれないませんが、このたびは湖陵同窓会の今後益々の発展と当日の盛会を願ひ精一杯努めさせていただきます。今後共「花の26期」どうぞお見知りおきを。

釧路市幣舞町2番2号

株式会社 吉井写真館

代表取締役 吉井祥朔(湖陵18期)

電話 41-4798番

御卒業・御入学の  
晴れの日を  
歴史の1ページに...

# 同期のアルバム発刊に思う

明 信 岡 上 30期中 釧

釧中30期・31期生は、昭和17年春、瞳れの釧中にAからE組迄の五クラス二百五十余名が入学許可され、熊笹六葉に囲まれた中の字の帽章を被る事ができた。

爾来友情を暖めあい卒業後17回にわたり同期会を継続している。松島幹事長康川事務局が企画推進私も進行の役を担っている。在学中は思想統制など批判はあるが45か月間、国民が同じく燃えてい滅私奉行時代で、友人は予科練や海軍、陸軍少年兵に応募していった。戦局悪化、遂に敗戦学徒動員会がなくなり学制が復帰され、四年卒業82名は30期生、五年卒業141名は31期生となる故、同期生なのである。

61年9月5日東急インを会場に開催の同期会席で、我々は、先輩期のように、旗はないけどアルバムは作りたい」と話題になり、幹事長の決に賛意を得、九名の委員が選ばれ委員長に私が任命され、次秋同期会を発行日に、早速構成に取りかかった。先ず各人の思い出のフォトの借り出しから始まる連日郵送されてくる枚数の状況を幹事長と連絡をとり、伝統と技術の工藤写真館に編集窓口に、170部一万円契約で発注。まず構想を練り委員会に提示諒承をえて作業にとりかかる。写真を並べるばかり

が能でない、新たる発想に学生時代の顔と現代の顔を集め、在学期の集団活動や動員スナップ、当時の証書・生徒手帳等々の資料、全先生の愛称や写真・旧校舎、更に同窓会長や遠藤幹事長を訪ね貴重な記録をお借りした。これが春までかかり、資料は勤務校の朝陽小耐火金庫に保管、昭和初期から生きている我々の社会変化と学校の歴史や足跡を入れようと図書館に通う。アルバム下段に掲載したことも特色のひとつ。柏木小へ転出、松島幹事長と写真の選択並べを写真館鎌山技術員と連日協議し昨秋9月12日定光寺にて同期物故者追悼会につづく同期会に発刊が間に合ったのである。永い一年は



立っている学生時代の筆者と親友

辛かったけれど楽しい日々であったと追憶し、内容は実に立派と自画自賛している。

本年は10月22日に同期会が、幹事長の召集で開催されるが、来年は還暦である。去年参加の学友が道外転出や黄泉を辿り欠けていくのはさみしいが、出会いを楽しみにしている。

この「くまざさ」も復刊以来携わっているが継続は嬉しく益々の発展を期待している。



アルバル編集委員会

松島幹事長、上岡編集委員長を囲んでメンバー一同

(62・2・6 於東急イン和室)

御婚礼・御宴会・御会合・御宿泊

政府登録国際観光ホテル・日本ホテル協会会員

釧路パシフィックホテル

中村 隆(釧中27期)

れんが屋★AM11:00～PM11:00

トロイカ★AM 8:00～PM11:00

パシフィックイン・八まき・八宝園

釧路市栄町2丁目6番地 ☎24-8811

# 社会人一年生

……がんばってます……



## 仕事に意欲をもって

釧路市役所

内田 博(湖陵40期)

釧路市役所に就任して四ヶ月。就職できるのだろうかと悩んでいた私が、まさか無理だろうと思っていた市役所から、合格通知書がきたときは本当にうれしい思いでした。民間企業を受けて、それが不合格になったとき、この分だと就職できないのかなあと思っていた矢先でしたから喜びもひとしおでした。就任当初は、不安と緊張でいっぱい、なにをしているかわかりませんが、今では、いい緊張感をもって、楽しく仕事をしています。社会人としての意識も最近少しわいてきました。

与えるはずだと信じてやっていけば、よい結果がいずれでると思っ  
ています。私の仕事は、少しの失敗でも、大変重大な事につながる恐れもあるので失敗を恐れずに、  
という感覚でやっていけず、自分の力を実際に試す機会がほとん少  
ししかないのが残念です。それでも失敗した時は、くよくよせずそれを今後の糧として気をさらにひ  
きしめて精一杯努力していきたい  
と思っています。

四月、社会人として新しい世界に足を踏み入れ、ふと気がつくともう七月半ば。ありふれた言葉ながら、光陰矢の如し。これが、今の心境です。  
高校時代、湖陵の自由な校風に甘んじ、画一的なものを否定し、より個性的に生きようとしていた私にとって四月からの世界は厳しいものでした。  
企業の中の一員として働くこと  
ごく当たり前の誰にでも出来るはずのことが苦痛に思えてしまう。  
決して、仕事が難しいということではありません。高校三年間、私  
が生きてきた世界と実社会との大きな食い違いに途惑いを感じたのです。しかし、いつまでもそう言っているわけにはいかず、あれこれ  
思案にくりかえしていました。  
そんな中で思いついたのが、今



## 「自分らしさを」

日本銀行釧路支店

吉田 千亜紀(湖陵40期)

までの自分を生かせる場を持つという  
ことでした。そうして私は一つの趣味をもち始めました。これはまだ本当に始めたばかりで、  
何ともいえない状態なのですが、これに打ちこめたら……と期待  
しています。  
職場では職場にふさわしい自分で  
応対できるよう、努力していま  
す。そのうちに湖陵で私が学んだ  
ことも少しずつだしていったら、  
そのことが大切な想い出をくれた  
湖陵に対しての心ばかりながら、  
思返しになるのではと考えていま  
す。  
これから先、もっと厳しく辛い  
ことが多々あるでしょうが、自分  
らしさを忘れずにいたいと思っ  
ています。

もっと素敵に伝えたい……。



想像から創造へのかけ橋

藤田印刷株式会社

〒085 釧路市若草町3番1号 TEL(0154)22-4165  
FAX(0154)22-2546



# 御挨拶と湖陵高校の一層の発展を願って

教職員湖陵会

会長 住友 昌

昨年の四月から春探中学校長として勤務しております。

このたび、前会長の上岡校長の役を継いで、第13代目の教職員湖陵会々長に推挙されました。私にとっては、誠に光栄なことでもありますが、又責任の重さに緊張しているところでもあります。皆様の御指導をよろしくお願いいたします。

私達の会は、小中高大はじめ、関係教育機関の先生方、風そ三百五十名の会員を擁し、「会員相互の親睦と修養を図り、母校の後援に当る」ことを目的として、30年も前に結成された歴史ある会です。歴代会長はじめ、役員の方々のなみなみならぬ努力によって、会の親睦や励まし、又母校のために物心両面にわたり尽力して来た会でもあります。こんな中で、湖陵同窓会との関係も一層深まり、会報「くまざさ」の編集を担当するなど、協力関係を強めて参りました。過日も、第18号「くまざさ」合同編集会議に出席させていただき、長内会長さんから地方同窓会皆さんの近況や又、教育問題などの御

意見等を拝聴し、有意義な一時を過ごさせていただきました。

私は、終戦の年を境に、釧中で5年間昭和23年高校定時で一年間学ばせて頂いただけに、母校に対する感慨一しおのものがありません。今年には湖陵新校舎建設と、同窓会館新築の声も聞いており、21世紀に向けて、母校の新たな出発でもあるかと喜んでおります。

「湖陵が丘に風ありて」と応援歌にありましたが、場所の移動について、一抹の寂しさはあるものの、新築校舎の位置は、やはり、鈴蘭薫った春探の丘であり、阿寒のお山と怒涛逆巻く太平洋を一望できる明媚な丘に違いなく、湖陵健児の修練と活躍の場となることを期待しております。又同時に、湖陵同窓会の益々の発展を祈念する次第でもあります。

8月14日は、湖陵同窓会の総会と懇親会が計画されております。私達同窓生が、一人でも多く集まり、老いも若きも一緒になって、共に語り、共に楽しみ、更に一層湖陵の発展を願いたいものだと考えております。

## 事務局だより

同窓会会員の皆様におかれましてはそれぞれの分野でご活躍の毎日のこととご拝察申し上げます。先日は六、十六、二十六期の当番幹事期の皆様が集まり、昭和六十三年度の釧中・湖陵高校同窓会の具体的な準備に入りました。例年のことながら八月十四日の当日まで大変なご苦労をかける訳ですがなんといいても当番幹事の皆様の力なくして総会、そして懇親会を開催させることは不可能でございます。会員一同大いに楽しみに期待しているのでその手腕を充分に発揮していただきたいと思っております。

話しは変わりますが、先日(五月二十一日)長内会長が苦小牧支部発足総会に出席致しましたが、若干その様子をお知らせしたいと思っております。会場は王子製紙成志会館において、約三十名の参加者で開催されたそうでございます。しかし、実際の会員数は四十三名であり、名簿も整備され、また総会内容も実に立派であったとのことでした。親交である釧路同窓会から「湖陵同窓会苦小牧支部」と染めぬいた真紅の応援旗が贈られ会場わねんばかりの拍手をいただいた

## 編集後記

例年はない冷夏が訪れ、夏の短い釧路に住む私たちには暑い地方がうらやましいと思う毎日です。母校野球部としては今年も調子が出ず敗退し、甲子園への夢も遠のきました。同窓生としては淋しい夏の大会となりました。

「くまざさ」第十八号の発刊にあたりましては、何かと御配慮をいただきました心よりお礼申し上げます。ご寄稿いただきました諸氏には重ねて心より感謝申し上げます。

母校の全面改築、着工も先日報道され、私たちにとりまして、もっとしている反面、いやが上にも期待が増すこの頃です。湖陵ヶ丘を超え、緑ヶ岡に広がる「誠・愛・勇」の教訓が、より多くの方々に受け継がれることを願いつつ今後の母校の益々の御発展と、同窓会を支えて下さっている皆様方の御健康と御多幸を、心よりお祈り申し上げます。

編集委員

長内 宏・遠藤 隆吉

住友 昌・若原 孝夫

吉井 正